



A Wonderful Life

尾崎 礼菜

From カナダ エドモントン



National Parks of the Canadian Rockies

みなさんの海外留学のイメージはどのようなものですか？

私の海外留学のイメージは、「外国人の友達がたくさんできる」「毎日楽しいパーティがある」「英語も簡単に習得できる」というものでした。

私は、そんな夢を描いて今年2月、カナダ・アルバータ州エドモントンの公立高校に留学しました。

エドモントンは、カナディアンロッキー山脈の東部に位置する人口約100万人の都市ですが、東部のトロントや西部のバンクーバーに比べると田舎です。

私は、そんな田舎の都市で3つの貴重な留学体験をしました。

1つ目は、自己主張についてです。

ある日、私は5人の友達とプールに行きました。プールにはウォーターライダーが何台もあって、それぞれが滑りたいライダーを選びました。

私はその場の空気を読んで、「みんなが行きたいところについていく」と言うと、怪訝な顔で「あなたはどのライダーに行きたいの？」と問い返されました。

「私は自己主張の無い典型的な日本人だな」と思い知らされた瞬間でした。



world waterpark

授業に対する考え方も日本人とは全く違ってきます。日本の公立高校では、どんな授業でも出席するのは当たり前ですが、彼らは必要ないと思う授業はスキップするのが当たり前です。

2つ目は、「海外で友だちを作ることができずか」というお話です。

私は、英語力が十分ではないことから、母語が英語の子たちのグループに入るのは難しいと感じました。

想像してみてください。

皆さん日本人グループの中に、日本語が苦手な外国人が1人入るようなイメージです。

いじめられている訳でも、嫌われている訳でもないのですが、深い関係にもならないということです。私を誘ってくれる友達は、ほとんどが英語を第一言語としない移民の子たちでした。

エドモントンには、経済的に余裕のない移民の子が多く集まっています。友達の中にはスマホがなくて連絡が取れなかったり、一緒にカフェでお茶する小遣いもなくて遊び時間のほとんどを公園で過ごしたり、貧困ゆえにスーパーの商品を万引きする生徒もいます。犯罪を繰り返す友達に対してどう注意すればいいのか、これからも友達関係を続けていいのか悩みました。

それが数少ない仲の良い友達ならなおさらです。友達を失ったときの心の痛さが留学生活の中で最も辛いことでした。

3つ目は、葛藤です。

カナダでは18歳未満の大麻やパイプなどの薬物使用は法律で禁止されていますが、多くの高校生が違法薬物を使用しているのが現実です。

カナダで初めてできた仲の良い友達が大麻の売買で逮捕され、私は最初の友達を失いました。海外での友達づくりは難しいなか、そのときのショックはとても大きく、大麻をしている友達とこれからも友達関係を続けていいのか、大麻を誘われる中、全て断れるかなど、心の葛藤をかかえたまま留学生活は続きました。

高校には1学年1000人×3学年の3000人が在籍していました。日本人留学生もいましたが、日本人だから意気投合するとは限りませんが、実は、日本語で相談できる相手がないという状況は、海外では大きなストレスになります。私もそのストレスに悩みました。

これが私のカナダ留学の現実です。

写真や動画は、みんな楽しそうに映ります。どの写真も一見すると楽しそうに見えますが、たくさんの葛藤や努力があつての留学でした。良い事も楽しい事もありましたが、80%は辛いことでした。でもそれ以上に、ベトナムやタイ、インド、中国、韓国などアジアを中心に世界中に友達ができただけは、最も大きな留学の成果だと思っています。勿論、英語力も上がり、視野と価値観も広がりました。今、自分がそう思えるのは、たくさんの試練を自分なりに克服してきたと思えるからです。

もし、今の私がエドモントンに出発する私を国際空港で見送ることができるなら、きっと次の言葉をかけるでしょう。

(かなりハードだけど大丈夫。いつか終わりが来るからね)

「留学と夢を超えた、素晴らしい人生を必ず発見するから頑張るね。」

KOCHI IYEO HP



2024年7月11日発行

発行者

高知県青年国際交流機構

(KOCHI IYEO)

会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ xiwang@yacht.ocn.ne.jp